

SAGA建設技術フェア2025

開催報告書



本報告書は、令和7年6月11日（水）～12日（木）にかけてSAGAプラザ（総合体育館）で開催した「SAGA建設技術フェア2025」の実施内容およびアンケート調査結果等についてとりまとめたものです。

令和7年10月

公益財団法人佐賀県建設技術支援機構

目次

1. フェアの概要	1
2. 出展者	2
2.1 出展者一覧表（66 団体）	2
2.2 会場配置	3
2.3 会場の様子	4
3. 来場者	5
4. 実施内容	6
4.1 ポスター及びチラシ	6
4.2 開催プログラム	7
4.3 開会式	9
4.4 特別講演	10
4.5 技術者発表（1）	11
4.6 技術者発表（2）	11
4.7 展示技術プレゼンテーション	12
4.8 パネル展示	13
4.9 閉会式	14
4.10 CPDS 等の受講証明	14
5. アンケート結果	15
5.1 来場者アンケート	15
5.2 出展者アンケート	23
6. まとめ	27

1. フェアの概要

主 催	公益財団法人佐賀県建設技術支援機構
共 催	佐賀県／佐賀大学／一般社団法人佐賀県県土づくりコンサルタント協会／ 一般社団法人佐賀県建設業協会／一般社団法人佐賀県建築士会／特定非営 利活動法人技術交流フォーラム
後 援	国土交通省九州地方整備局／佐賀県教育委員会／佐賀市／一般社団法人佐 賀県地質調査業協会／佐賀県土木施工管理技士会／一般社団法人佐賀県建 築士事務所協会／低平地研究会／公益社団法人土木学会西部支部／公益社 団法人地盤工学会九州支部／公益社団法人日本技術士会九州本部／一般社 団法人建設コンサルタント協会九州支部／NHK 佐賀放送局／サガテレビ／ 佐賀新聞社／建設新聞社／ぶんぶんテレビ／FM 佐賀／NBC ラジオ佐賀
日 時	【1日目】 令和7年6月11日（水）10:00～16:00 【2日目】 令和7年6月12日（木）10:00～16:00
場 所	SAGA プラザ（総合体育館）（佐賀市日の出一丁目21番15号）
目 的	建設分野（土木・建築）の技術・工法・製品などについて産学官における技 術情報の交流の場を提供し建設分野の技術開発や新技術導入の促進を図る とともに、高校生・大学生を含む一般の方々に建設業界の魅力や社会資本整 備の必要性について理解を深めてもらうことにより、建設産業の発展及び キャリアデザイン教育の推進に寄与することを目的とする。
テ ー マ	建設技術が創る安全・安心なまちづくり
内 容	特別講演 技術者発表 学生研究発表 技術展示ブース 展示技術プレゼンテーション パネル展示
出展テーマ	環境／防災／コスト縮減／維持管理／インフラ DX／佐賀の技術
来 場 者	総数 2,453名（2日間延べ） 【内訳】 官公庁・団体職員 236名 建設業 957名 コンサルタント 451名 製造業・メーカー 270名 一般・その他 139名 学生・生徒 400名

2. 出展者

2.1 出展者一覧表（66 団体）

66 の企業・団体からブースを出展していただきました。県内の企業・団体からの出展は 28 ブースでした。

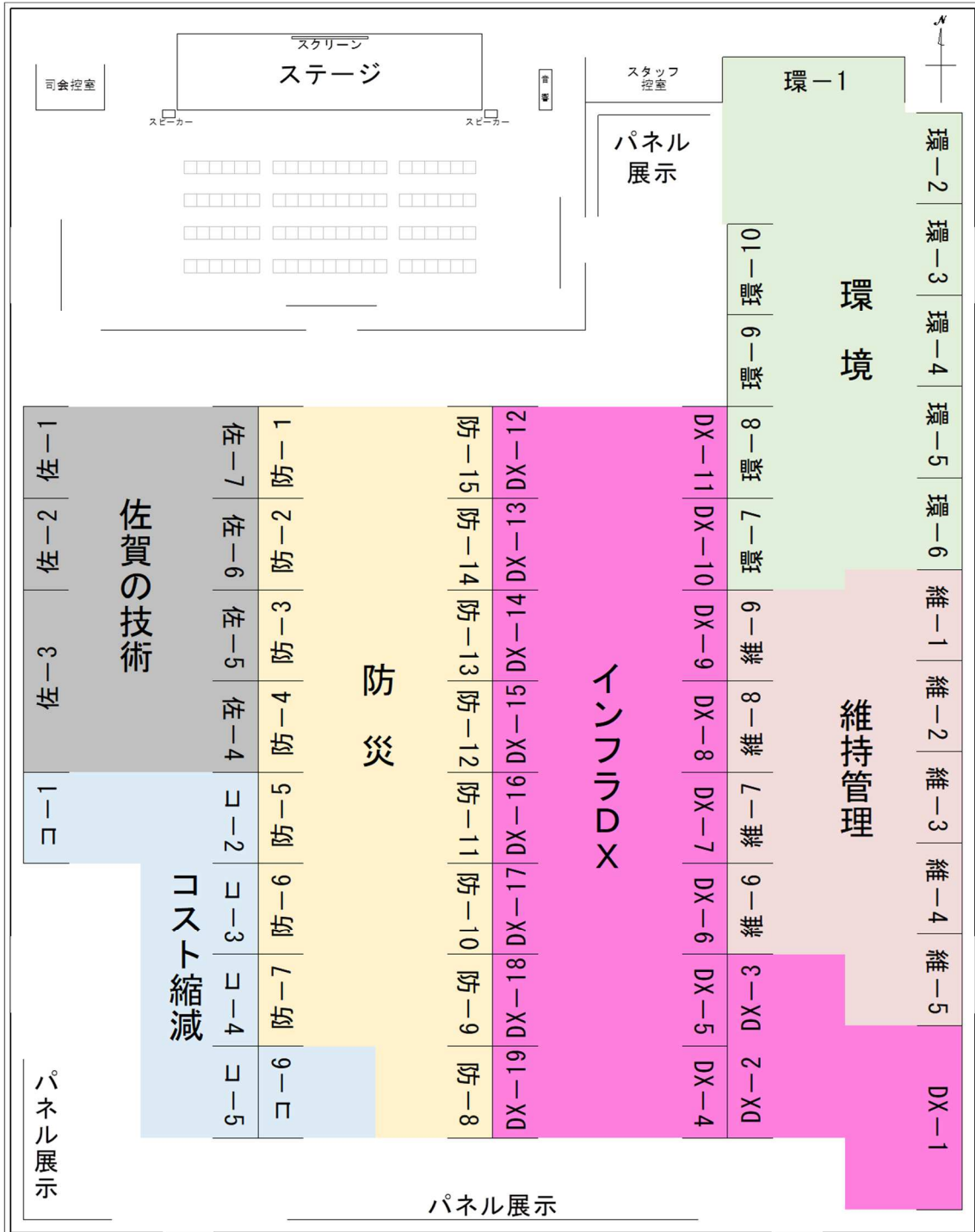
【出展者一覧（66 団体）】

分類	番号	企業・団体名	県内
環 境	環-1	旭化成アドバンス株式会社	
	環-2	高原本材株式会社	○
	環-3	宇部工業株式会社	
	環-4	笠原建設株式会社	○
	環-5	日本建設技術株式会社	○
	環-6	一般社団法人 有明未利用施設利用促進研究会	○
	環-7	日本乾溜工業株式会社	
	環-8	有明コンクリート工業株式会社	○
	環-9	トランスコスモス株式会社	
	環-10	九州SI工法協会	
防 災	防-1	株式会社トータル環境	
	防-2	株式会社協和製作所	○
	防-3	株式会社ウッドプラステックテクノロジー	
	防-4	松鶴建設株式会社	
	防-5	一般社団法人 セメント協会	
	防-6	国土防災技術株式会社/サンスイ・ナビコ株式会社	
	防-7	ケイコン株式会社	
	防-8	株式会社仙舎銘板	○
	防-9	東亜グロウト工業株式会社 九州支店	
	防-10	ハイジュールネット工法研究会	
	防-11	株式会社マキテック	
	防-12	日特建設株式会社 九州支店	
	防-13	不二コンクリート工業株式会社	○
	防-14	青木あすなる建設株式会社	
	防-15	西日本技術開発株式会社 佐賀営業所	○
コスト削減	コ-1	佐賀県のリフレッシュ工法協会	○
	コ-2	基礎地盤コンサルタンツ株式会社	○
	コ-3	株式会社建築資料研究社・佐賀支店 目建学院・佐賀校	○
	コ-4	協同組合Masters ジオテック工法研究会	
	コ-5	フローテイング基礎研究会	○
	コ-6	株式会社セリタ建設	○
維持管理	維-1	大成ロテック株式会社 九州支社	
	維-2	松栄技建株式会社	○
	維-3	株式会社ハットリ工業	○
	維-4	大同塗料株式会社 福岡支店	
	維-5	日鉄スラグ製品株式会社	
	維-6	ロンタイ株式会社 福岡支店	
	維-7	日鉄テックスエンジニアリング株式会社	
	維-8	株式会社太平洋コンサルタント	
	維-9	株式会社富士ビー・エス	
佐賀の技術	佐-1	佐賀県 県土整備部 建設・技術課	○
	佐-2	株式会社名村造船所 鉄構事業部	○
	佐-3	九州製鋼株式会社	○
	佐-4	日之出水道機器株式会社	
	佐-5	一般社団法人 佐賀県県土づくりコンサルタント協会	○
	佐-6	佐賀大学理工学部/理工学研究科 都市基盤工学コース/建築環境デザインコース	○
	佐-7	株式会社多久製作所	○
インフラDX	DX-1	西日本電信電話株式会社 佐賀支店	○
	DX-2	国際技術コンサルタント株式会社	○
	DX-3	ビジオアックス株式会社	
	DX-4	シマウチエンジニアリング株式会社	○
	DX-5	精密舎株式会社	○
	DX-6	福井コンピュータ株式会社 九州営業所	
	DX-7	レフィクシア株式会社	
	DX-8	株式会社ワイビーエム	○
	DX-9	株式会社水野建設コンサルタント	
	DX-10	村本建設株式会社	
	DX-11	簡井測量設計株式会社	○
	DX-12	アイサンテクノロジー株式会社	
	DX-13	株式会社横河技術情報	
	DX-14	株式会社ヒラテ技研	
	DX-15	システムメトリックス株式会社	
	DX-16	株式会社マブライ	
	DX-17	株式会社熊谷組	
	DX-18	錦城護謨株式会社	
	DX-19	株式会社オプティム	

2.2 会場配置

1つの会場に『ブース出展エリア』と『ステージエリア』を設けることで、両エリアの行き来を簡単にできるようにしました。また、ブース出展エリアは出展テーマごとに配置することで、テーマに関する技術や工法の情報収集をしやすくしました。

【会場配置図】



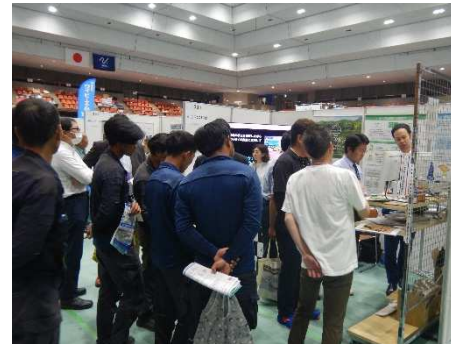
2.3 会場の様子



【 全 景 】



【 受 付 】



【 出展ブース 】



【 講演・発表 】

3. 来場者

2日間で総計2,453名の方にご来場いただきました。建設（土木・建築）の来場者が最も多く、次いで設計・調査・コンサルタントが多い結果となりました。

受付での混雑緩和のため、WEBによる事前申込みをお願いしました。

【来場者集計表】

(単位：人)

来場者 \ 日時	6/11(水)	6/12(木)	小計
官公庁・団体職員	131	105	236
建設(土木・建築)	466	491	957
設計・調査・コンサルタント	268	183	451
製造業・メーカー	152	118	270
一般・その他	79	60	139
学生(高校生・大学生)	165	235	400
合計	1261	1192	2453

4. 実施内容

4.1 ポスター及びチラシ

フェアの開催を広く周知するため、ポスターおよびチラシを作成し、区市町や関係団体等に配布しました。

【ポスター及びチラシ】



(ポスター／チラシ表)



(チラシ裏)

4.2 開催プログラム

1日目は開会式、特別講演、技術者発表、学生研究発表、展示技術プレゼンテーション7件、2日目は特別講演、技術者発表、展示技術プレゼンテーション10件、閉会式を行いました。

SAGA建設技術フェア2025 プログラム	
6月11日(水) 【1日目】	
9:30~	受付開始
10:00~ 10:15	開会式 開会挨拶 / 来賓挨拶 / テープカット
10:15~ 11:30 (15分/件)	展示技術プレゼンテーション(1) GXに向けた地中熱利用について 【環-6】(一社)有明末利用熱利用促進研究会
	高耐久保護シート『防災イエローシート』 【防-1】(株)トータル環境
	cm精度の高精度GPS端末LRTKでスマホ1台簡単点群3Dスキャン 【DX-7】レフィクシア(株)
	建設DX支援サービスについて 【DX-2】国際技術コンサルタント(株)
11:30~ 12:00	技術者発表(1) 『建設コンサルタントの魅力』 (一社)佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会 (株)コスモエンジニアリング 北島 優介 氏 国際技術コンサルタント(株) 島崎 史徳 氏 精工C&C(株) 中川 赳総 氏
	特別講演(1) 『安全・安心なまちづくりに向けたハードとソフトの連携 ～建設・医療分野からの支援～』 佐賀大学医学部看護学科 生涯発達看護学講座小児看護学領域 教授 鈴木 智恵子 氏
14:00~ 15:00 (15分/件)	展示技術プレゼンテーション(2) 低水位時開放型フラップゲート(オートフラップゲート・Ltype) 【防-2】(株)協和製作所
	水中測量機器/橋りょう・トンネル点検技術等のご紹介について 【DX-3】ビジオテックス(株)
	ANIST: 1つのアプリで点群から平面図作成 【DX-12】アイサンテクノロジー(株)
15:00~ 16:00	学生研究発表 『研究発表と将来展望』 佐賀大学大学院理工学研究科博士前期課程 都市基盤工学コース 藤林 梢梧 氏 建築環境デザインコース 永田 葉菜 氏
	~16:00 1日目閉会



6月12日(木) 【2日目】

9:30~	受付開始		
10:00~	2日目開会	10:00~	
10:05~ 12:00 (15分/件)	展示技術プレゼンテーション(3)		
	災害対策をもっと簡単に！ 川裏側に設置する新しい無動力ゲート 【環-7】日本乾溜工業(株)		
	セメント系固化材を用いた水辺の活用事例と能登半島地震に対する効果 【防-5】(一社)セメント協会		
	安心して鋼矢板を引抜けるオンリーワン工法=GEOTETS (ジオテツ) 工法 【コ-4】協同組合Masters ジオテツ工法研究会		
	鉄鋼スラグを使用した固まる簡易舗装材 カタマ®SP 【維-5】日鉄スラグ製品(株)		
	地盤改良機の進化版 ここに誕生！ 【DX-8】(株)ワイビーエム		
地域の安全と発展に貢献するDXを活用した取り組み 【DX-9】(株)水野建設コンサルタント		↑ ブ ー ス 展 示 ↓	
特別講演(2)			
13:00~ 14:00	『災害救助犬の活動について』 特定非営利活動法人 日本レスキュー協会 災害救助犬事業 高木 美佑希 氏		
展示技術プレゼンテーション(4)			
14:00~ 15:15 (15分/件)	プレキャスト大型波返しブロック「上部フレア護岸」 【防-7】ケイコン(株)		
	「コラムアプローチ工法」・「コラムスラブ工法」・「コラムシステム工法」 【コ-5】フローティング基礎研究会		
	インフラDXへの取り組み ~村本建設のICT技術~ 【DX-10】村本建設(株)		
	三次元設計への第一歩 (3Dモデル活用の事例) 【DX-11】筒井測量設計(株)		
技術者発表(2)			
15:15~ 15:55	『佐賀城下歴史的建物悉皆調査から見えるもの』 (一社)佐賀県建築士会 (有)江島建築文化 取締役 江島 文 氏		
15:55~ 16:00	閉会式 閉会挨拶		

4.3 開会式

ステージにて開会式を執り行いました。共催や後援の皆様方にご列席いただき、主催者挨拶、来賓挨拶、テープカットが行われました。

【主催者挨拶(支援機構 王丸理事長)】



【来賓挨拶(武雄河川事務所長 真鍋 将一 氏)】



【来賓・共催者によるテープカット】



(テープカット写真 左から)

一般社団法人 佐賀県建築士会

一般社団法人 佐賀県建設業協会

佐賀県 県土整備部 建設・技術課

公益財団法人 佐賀県建設技術支援機構

国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所

佐賀大学 理工学部 理工学科 都市工学部門

一般社団法人 佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会

特定非営利活動法人 技術交流フォーラム

会長 小島 啓 氏

専務理事 山崎 日出男 氏

副部長 仁戸田 幸司 氏

理事長 王丸 義明

所長 真鍋 将一 氏

教授 大串 浩一郎 氏

副会長 法村 孝樹 氏

副理事長 福島 裕充 氏

4.4 特別講演

1 日目は、

佐賀大学 医学部 看護学科 生涯発達看護学講座 小児看護学領域
教授 鈴木 智恵子 氏

に「安全・安心なまちづくりに向けたハードとソフトの連携 ～建設・医療分野からの支援～」と題してご講演いただきました。

2 日目は、

特定非営利活動法人 日本レスキュー協会 災害救助犬事業 高木 美佑希 氏
に「災害救助犬の活動について」と題してご講演いただきました。

【佐賀大学 医学部 看護学科 鈴木 智恵子 氏による講演の様子】



【日本レスキュー協会 高木 美佑希 氏による講演の様子】



4.5 技術者発表（1）

建設業界での若手の一層の活躍に寄与することを目的として、

株式会社コスモエンジニアリング 北島 優介 氏

国際技術コンサルタント株式会社 島寄 史徳 氏

精工C&C株式会社 中川 赳総 氏

に「建設コンサルタントの魅力」と題してご講演いただきました。

【講演の様子】



4.6 技術者発表（2）

建築業界での女性の一層の活躍に寄与することを目的として、

有限会社江島建築文化 江島 文 氏

に、「佐賀城下歴史的建物悉皆調査から見えるもの」と題してご講演いただきました。

【講演の様子】



4.7 展示技術プレゼンテーション

17 のブース出展者による展示技術プレゼンテーションをステージにて行いました。1 出展者あたりの発表時間は 15 分で各技術や製品などについて発表をしていただきました。

【技術発表者一覧表】

分類	企業・団体名	発表内容
環-6	一般社団法人有明未利用熱利用促進研究会	GXに向けた地中熱利用について
環-7	日本乾溜工業株式会社	災害対策をもっと簡単に！ 川裏側に設置する新しい無動力ゲート
防-1	株式会社トータル環境	高耐久保護シート『防災イエローシート』
防-2	株式会社協和製作所	低水位時間開放型フラップゲート（オートフラップゲート・Ltype）
防-5	一般社団法人セメント協会	セメント系固化材を用いた水辺の活用事例と能登半島地震に対する効果
防-7	ケイコン株式会社	プレキャスト大型波返しブロック「上部フレア護岸」
コ-4	協同組合Masters ジオテツ工法研究会	安心して鋼矢板を引抜けるオンリーワン工法=GEOTETS（ジオテツ）工法
コ-5	フローティング基礎研究会	「コラムアプローチ工法」・「コラムスラブ工法」・「コラムシステム工法」
維-5	日鉄スラグ製品株式会社	鉄鋼スラグを使用した固まる簡易舗装材 カタマ®S P
DX-2	国際技術コンサルタント株式会社	建設DX支援サービスについて
DX-3	ビジオテックス株式会社	水中測量機器/橋りょう・トンネル点検技術等のご紹介について
DX-7	レフィクシア株式会社	cm精度の高精度GPS端末LRTKでスマホ1台簡単点群3Dスキャン
DX-8	株式会社 ワイビーエム	地盤改良機の進化版 ここに誕生！
DX-9	株式会社 水野建設コンサルタント	地域の安全と発展に貢献するDXを活用した取り組み
DX-10	村本建設株式会社	インフラDXへの取り組み ～村本建設のICT技術～
DX-11	筒井測量設計株式会社	三次元設計への第一歩（3Dモデル活用の事例）
DX-12	アイサンテクノロジー株式会社	ANIST：1つのアプリで点群から平面図作成

【展示技術プレゼンテーションの様子】



4.8 パネル展示

会場では以下の団体からのご協力によりパネル展示を行いました。

- ・青春 BUILD プロジェクト（代表：デミー博士）
- ・佐賀県

【パネル展示の様子】



4.9 閉会式

当支援機構の王丸理事長の閉会挨拶で2日間の幕を閉じました。

【閉会挨拶】



【閉会式の様子】



4.10 CPDS 等の受講証明

当フェアは一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会の運営する CPDS（継続学習制度）の学習プログラムとして認定されました。CPDS のユニット数は両日とも 2 ユニット/日でした。

CPDS へ登録を希望される来場者には CPDS カード等を機械で読取り主催者が一括で学習履歴申請代行を行いました。

CPDS 以外の他の学会・団体の CPD に登録を希望される来場者には受講証明書を発行しました。

5. アンケート結果

5.1 来場者アンケート

来場者を対象にアンケート調査を行いました。

(1) 1日目

設問1) 職業

建設業が最も多く来場者のほぼ半数を占め、次いで設計・調査・コンサルタント、学生・生徒となっています。

設問2) 今回のフェアで印象に残ったプログラム

多くの方は、出展ブースが印象に残ったようです。

設問3) フェアに関する評価

良い、やや良いという回答は約87%となっています。

【良い】

- ・様々な業者が1箇所に集まっているため情報が多く良い
- ・プレゼンテーションがあり分かりやすい
- ・便利なプログラムや初めて知る機械があったから
- ・防災やインフラ、環境等、知らない製品等を把握することが出来た
- ・実機や実演を通じて理解が深まり、実務での活用イメージがしやすくなった
- ・佐賀の企業の技術が分かった。貴重な講演を聞けました
- ・自分と年齢が近い学生さんがしっかりとした研究発表をしていて刺激を受けた
- ・ブース企業の開発努力されている様子が素晴らしい
- ・技術と工夫の集約が詰まっていて、企業の熱意を肌で感じる事が出来た

【やや良い】

- ・業務で使用している工法について知ることが出来た
- ・業務の関係で気になる分野の話聞くことが出来、ためになった。様々な分野のプレゼンやブースがあり、多方面で話を聞けることがよかった
- ・多くの技術を一度に見ることができ、直接質問も出来る
- ・九州の県毎の展示会として最大の企画。他県に無い良さがある

【普通】

- ・ICT関連がもっと欲しい
- ・コンサル向けの出展を増やして欲しい
- ・各会社の技術発表を聞き、多くの技術を知れた
- ・専門分野が違ったから

設問4) 毎年の開催を希望するか【一般のみ】

希望するという回答は91%となっています。

設問 5) 来場目的【大学生・高校生のみ】

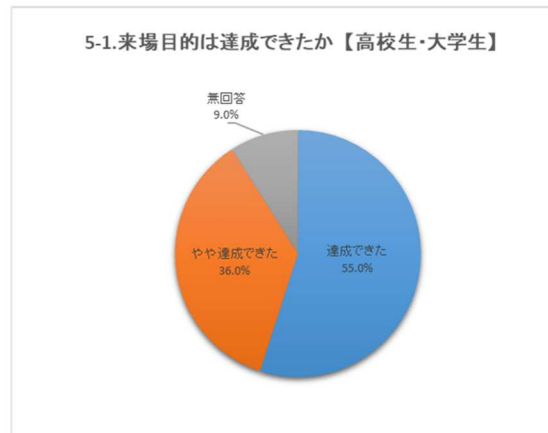
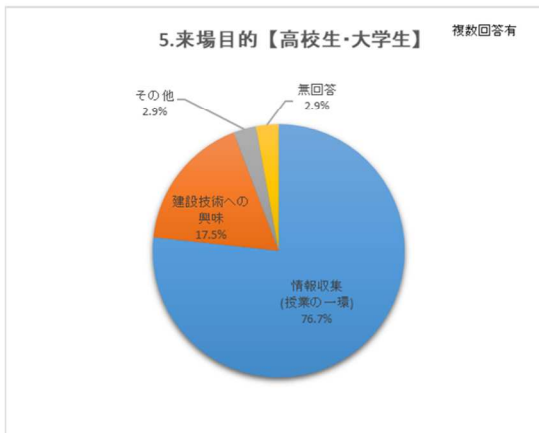
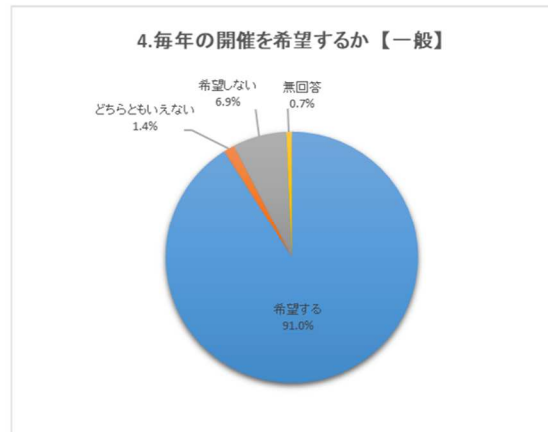
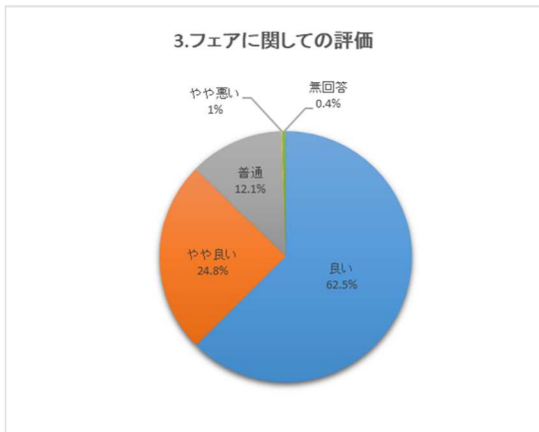
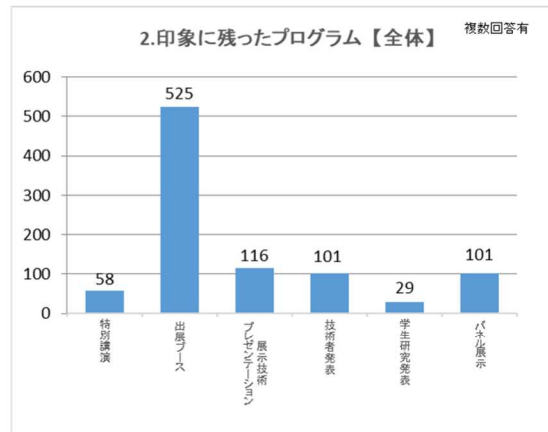
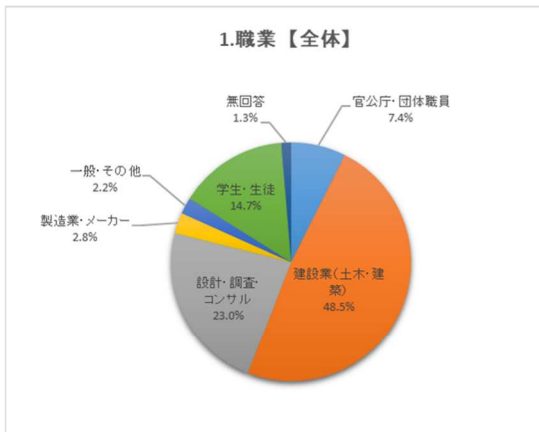
情報収集が最も多く約76%、次いで建設技術への興味が約17%程度となっています。

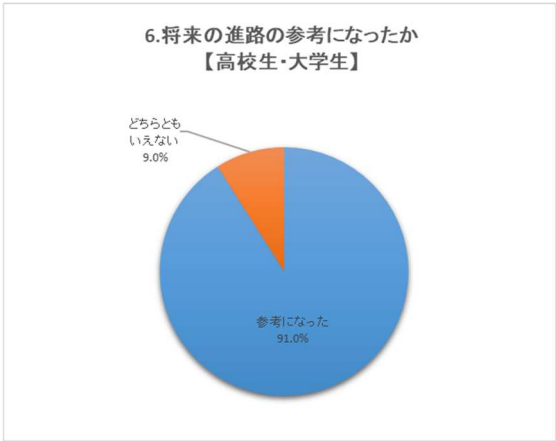
設問 5-1) 来場目的は達成できたか【大学生・高校生のみ】

達成できたとやや達成できたを合計すると91%となっています。

設問 6) 将来の参考になったか【大学生・高校生のみ】

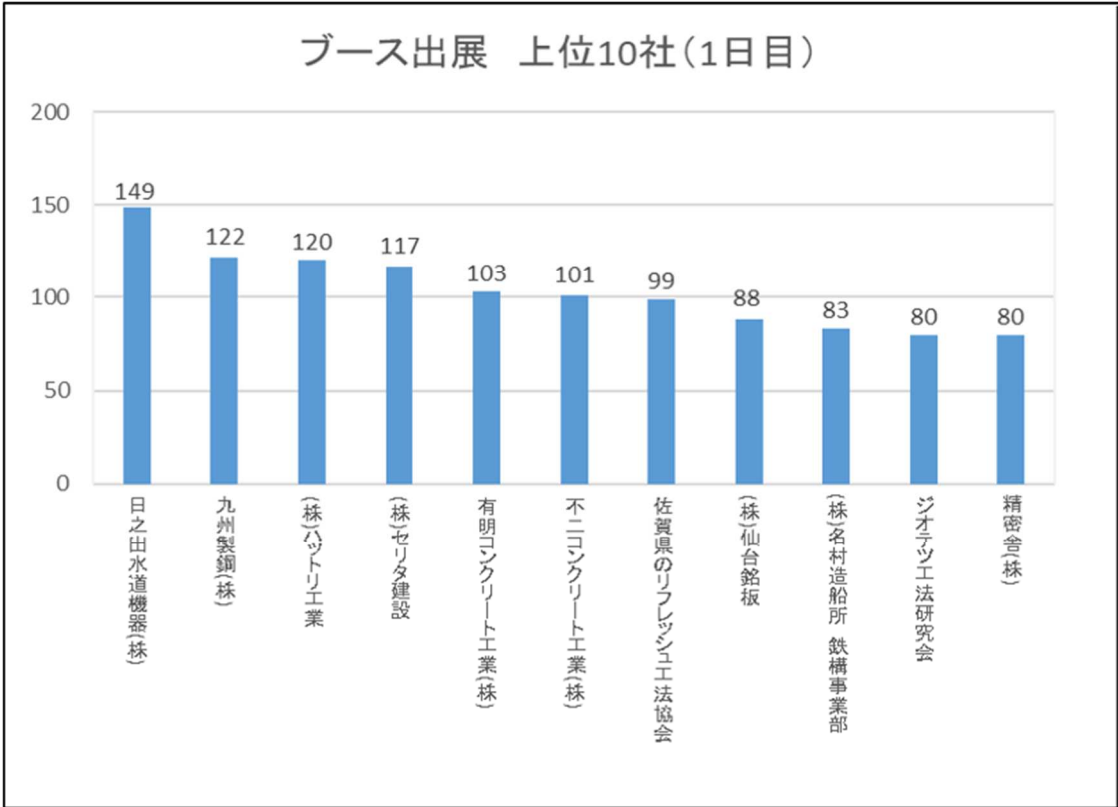
参考になったという回答は91%となっています。





【出展ブース確認押印欄の押印数の上位10社（1日目）】

アンケート用紙に設けた出展ブース確認押印欄を集計したところ、上位10社はグラフのとおりであり、佐賀の技術の日之出水道機器（株）が最も多く、次いで佐賀の技術の九州製鋼（株）となっています。



(2) 2日目

設問1) 職業

建設業が最も多く来場者のほぼ半数を占め、次いで学生・生徒、設計・調査・コンサルタントとなっています。

設問2) 今回のフェアで印象に残ったプログラム

多くの方は、出展ブースが印象に残ったようです。

設問3) フェアに関する評価

良い、やや良いという回答は約84%となっています。

【良い】

- ・様々な先端技術を1日で多く学べて、とても楽しく、業務に活かしていけるものは積極的に取り入れていきたい
- ・出展ブースが種類ごとに分かれていてどこに行けばいいか分かりやすかった
- ・プレゼンテーションについてみなさん聞き取りやすく時間内にまとめられていて良かった
- ・幅広い技術の展示を見ることが出来、今後の仕事で活用したい
- ・実際の機器に触れられて、実務へのイメージが湧いた
- ・知らない業者様との接触があり技術面で参考になる
- ・DXが推進されている状況を肌で感じることが出来た
- ・様々な開発、技術分野において個々が個性を出して良かった
- ・普段見れない内部の構造など見ることが出来たりするところ
- ・土木分野において今まで知らなかった面を様々な企業の説明を通して学ぶことが出来たから
- ・あまり理解していなかったので実際に足を運んで身近に感じた

【やや良い】

- ・産・官・学、一体となった取組は評価できる
- ・知らなかった事(塗装にPCBが含まれている)等新たな発見があった
- ・コンクリート会社や建設機器メーカーが環境・防災に力を入れていると思った
- ・技術の事はもちろん、その技術を持っている企業の事を知る場にもなったから
- ・各ブースの分野を色分けして通路床面に順路があれば

【普通】

- ・話を聞きたいブースが混んでいて詳しく聞けなかった
- ・自分の会社が行っていない事や現場で便利な技術があつて良かったから
- ・熱意や最新技術を知れたが、自社に望むものはなかった
- ・2日間来場できない場合、見たいものが分かれた時に悩む

設問4) 毎年の開催を希望するか【一般のみ】

希望するという回答は約89%となっています。

設問 5) 来場目的【大学生・高校生のみ】

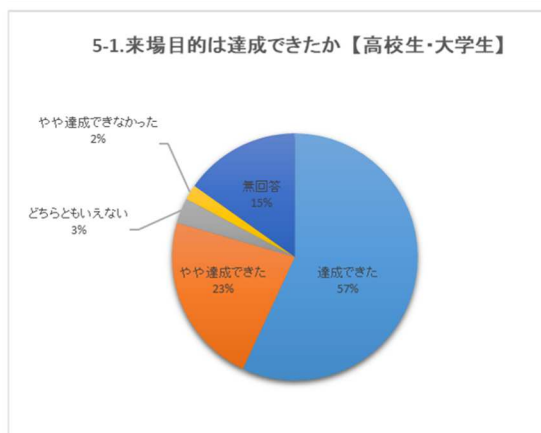
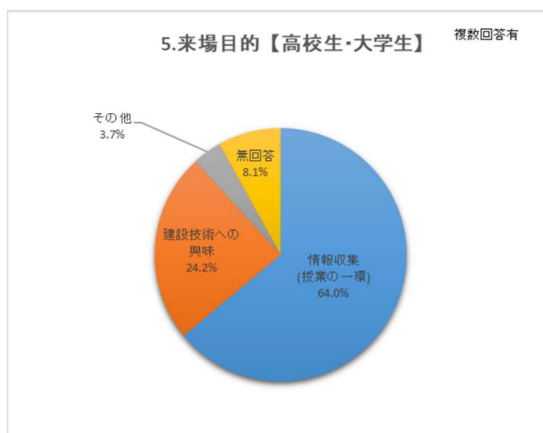
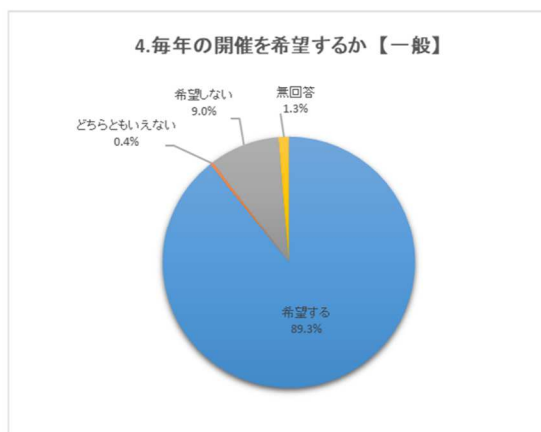
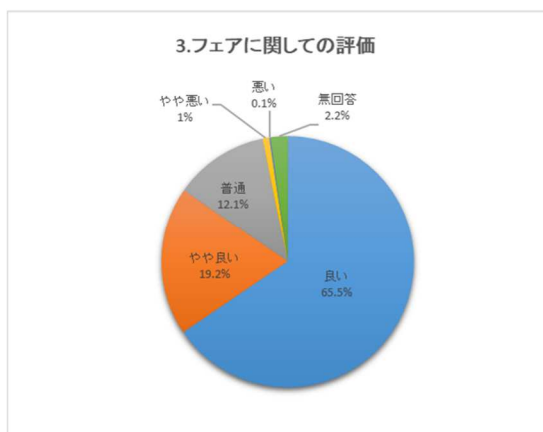
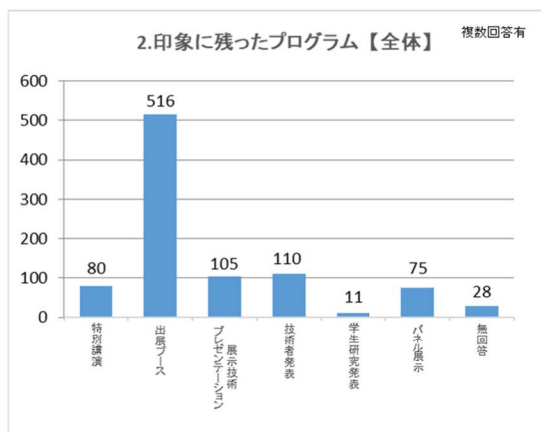
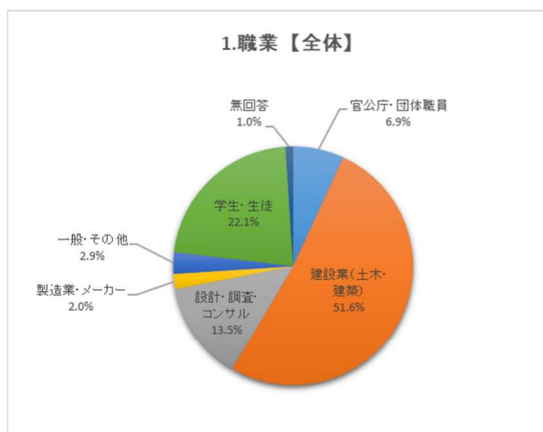
情報収集が最も多く 64%、次いで建設技術への興味が約 24%程度となっています。

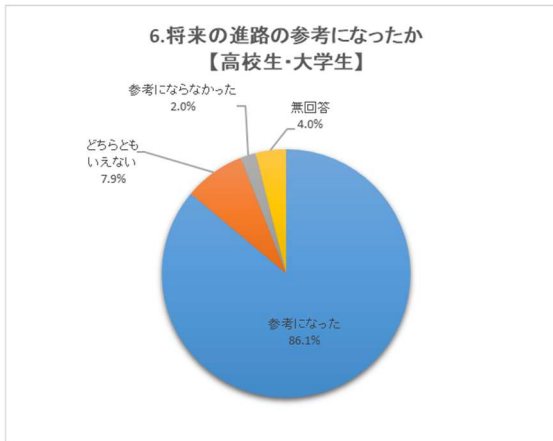
設問 5-1) 来場目的は達成できたか【大学生・高校生のみ】

達成できたとやや達成できたを合計すると 80%となっています。

設問 6) 将来の参考になったか【大学生・高校生のみ】

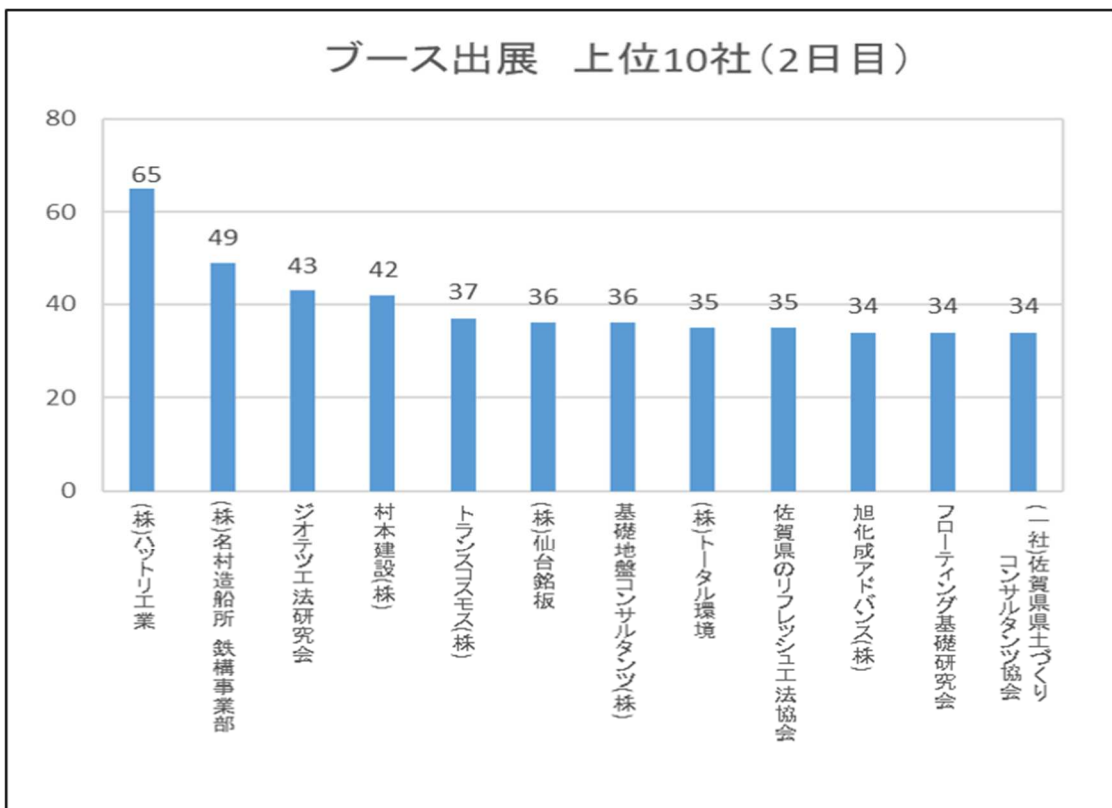
参考になったという回答は約 86%となっています。





【出展ブース確認押印欄の押印数の上位10社（2日目）】

アンケート用紙に設けた出展ブース確認押印欄を集計したところ、上位10社はグラフのとおりであり、維持管理に関する技術の（株）ハットリ工業が最も多く、次いで佐賀の技術の（株）名村造船所 鉄構事業部となっています。



(3) 来場者からの自由意見（希望する出展テーマや要望など）

- ・ 3次元点群の新たな技術があれば見たい
- ・ 3D キャドに関するブースが増えると嬉しい
- ・ 「佐賀の技術」についてのブースをもう少し増やして欲しい
- ・ ICT の現状、問題、課題、今後の対応について
- ・ ICT 重機のデモンストレーション
- ・ IT 関係をもっと増やして欲しい
- ・ As 舗装関係の新技术
- ・ DX 関連、調査ボーリング関連
- ・ ICT、AI・IOT に関する技術
- ・ VR、AR の体験ブースを増やして欲しい
- ・ ICT 塗装について
- ・ BIM、CIM、コスト削減
- ・ 色々な大学、理工学部の研究内容について
- ・ 安全対策の新技术を見たい
- ・ インフラDX、新技术
- ・ 開始時間をもう少し早めにしてください（9:30～）駐車場が狭すぎると感じました
- ・ ブース毎に時間を設けてマイク活用で10～20分程度のアピール場を実施して欲しい
- ・ 屋外でも機械を使うブースがあれば良い
- ・ 学生へのインターンをまとめた所
- ・ 改良工事
- ・ 仮設矢板等の新技术があれば聞きたい
- ・ 基礎工事関係
- ・ 技術の伝承
- ・ 企業や大学、行政が連携した企画や電気や機械などの技術も見たいなと思いました
- ・ 下水道関係の展示を増やして欲しい
- ・ 減災・防災の技術や取り組みを知りたい
- ・ 業体をいくつかのグループに分け、おすすめの出展ブース周りの提案パンフレットや掲示があるとそのブースに行きやすかったりするのかなと思いました
- ・ 橋梁補修工法、補強関係
- ・ 下水道管等の地下埋設物の最新技術を聞きたい
- ・ 建築の展示ブースも増やして欲しい
- ・ 建築の設計に関する事
- ・ 建設業の人材不足への対策について
- ・ 空調の技術をもっとみたい
- ・ 建設土木業界の現状（現場情報、最新技術）等

- ・コンクリート補修のクラック調査技術
- ・災害時に役に立つ機材等
- ・再生エネルギーの技術、化学製品
- ・講演や発表をアーカイブで見れるとありがたい
- ・コラボが出来るような会社同士があればいい
- ・資材の展示が増える事期待します
- ・高校生写真部を現場に招いて撮影会を開催した企画がとても良かった
- ・講演と展示もう少し距離をあけてほしい（講演が聞き取りづらい）
- ・再生可能エネルギーやゴミの再利用技術
- ・災害活動の事例等の講演を今後も行っていたきたい
- ・佐賀の技術等地産技術
- ・森林土木関係で活用できるもの
- ・省力化施工技術
- ・将来的には佐賀アリーナで開催して欲しい
- ・上下水道に関する技術等
- ・室内ドローンを見たい
- ・地震の予知をすぐわかる機械があれば見たい
- ・新工法と防災とメンテの工法を増やしてもらいたい
- ・担い手の確保につながるようになれば良い
- ・電気系の事についてのテーマがいいと思います
- ・ダムの建設
- ・ハウスメーカー等の活動
- ・デジタル関連のトピックの増大
- ・地中熱・熱エネルギー
- ・法面災害復旧の工法
- ・テキストの確認やアンケートの記入などが出来るように座れる場所を提供して欲しい
- ・路盤材等を見たい
- ・防災環境、環境対策
- ・湾港に関する技術が見たいです
- ・ヨハネス・デレーケの様な知恵と工夫の河川技術が見たかった
- ・水管理等の技術を知りたい。今後 AI により管理が簡単になるようなものがあれば
- ・舗装の環境に関する技術
- ・もう少し発注者（官庁）の参加を多く
- ・補修材料等のコンクリート関係
- ・もっと多くの数の大学の話も聞いてみたい

5.2 出展者アンケート

出展者を対象にアンケート調査を行いました。66社の出展者のうち、21社から回答をいただきました。

設問1) 出展の目的は

企業・団体のPRが38%、営業活動が28%、新製品等のPRが24%でした。

設問2) 出展の目的は達成できたか

達成できた・やや達成できたが86%、どちらともいえないが14%でした。

設問3) 次回も出展したいか

出展したいは86%で、出展しないはありませんでした。

設問4) 技術発表をしたか

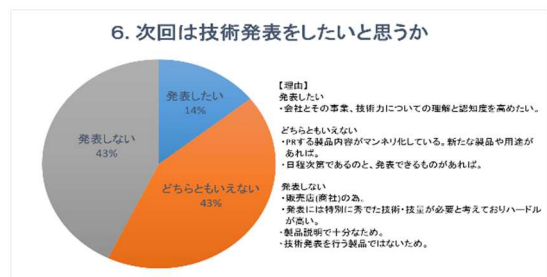
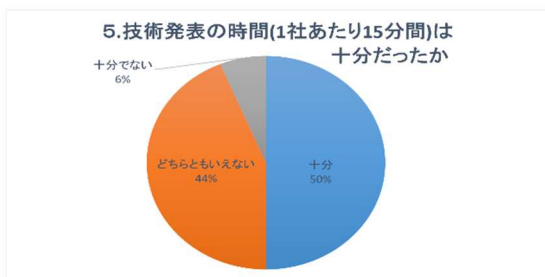
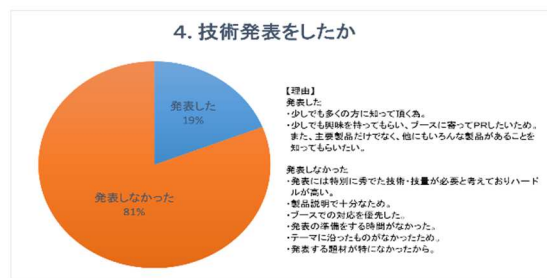
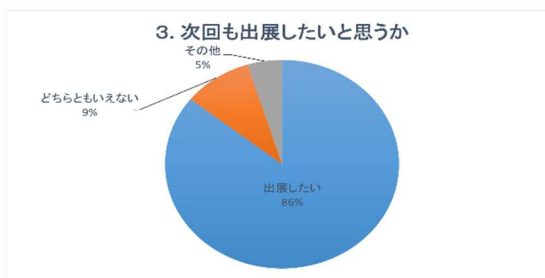
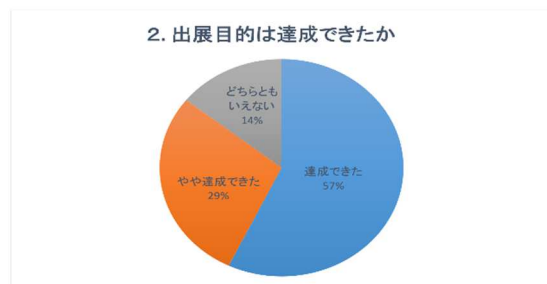
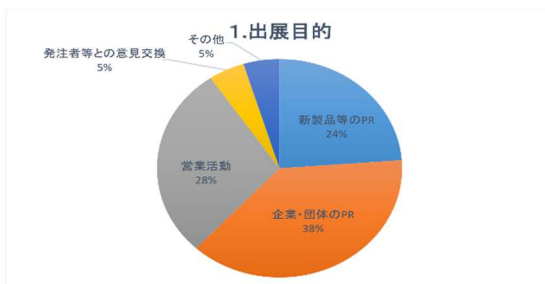
技術発表したのは19%でした。

設問5) 技術発表の時間(1社あたり15分間)は十分か。

十分との回答は50%でした。

設問6) 次回は技術発表をしたいか

次回も技術発表をしたいと答えたのは14%でした。



設問 7) 来場者数に満足したか

満足と回答したのは 80%でした。

設問 8) フェア後に来場者に PR したか

25%の出展者がフェア後に PR したようです。

PR した内容と相手は、以下の通りです。

- ・ブース来場者全員 御礼メール
- ・名刺交換した方に改めて PR のメールを送付した
- ・既存のユーザー様ですが新商品を展示していた為、会社へも PR を行って欲しいと言われたので行いました
- ・県内ゼネコン：スラグ路盤材と透水性コンクリート舗装の採用 PR
- ・製品説明
- ・ブース来場企業様へ来場のお礼及び、製品紹介を実施（メール、電話、訪問）

設問 9) フェア後に来場者からの問合せはあったか

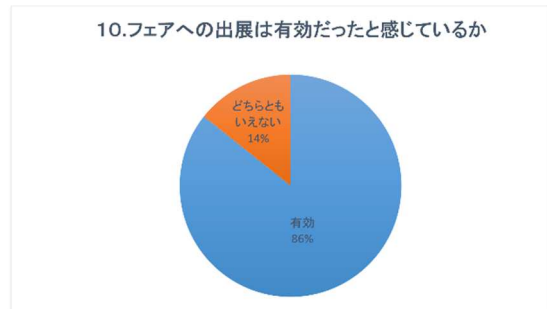
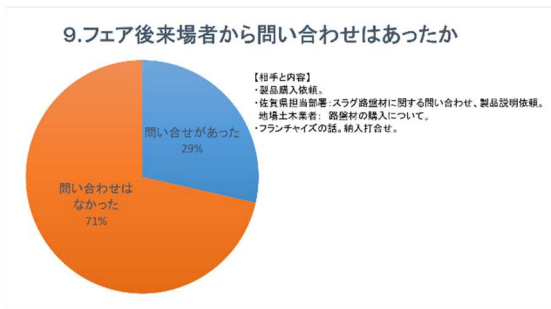
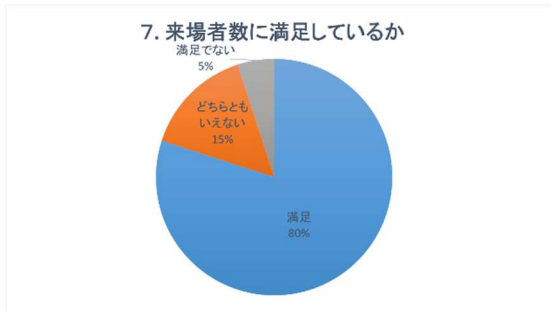
来場者から問合せがあったのは 29%でした。

設問 10) フェアへの出展は有効だと感じたか

86%は出展が有効だったと感じているようです。

理由は、以下の通りです。

- ・製品を認知して頂く方法として有効
- ・ブースに立ち寄った学生が弊社に関心を持ち、その後、職場見学にも来てくれた
- ・普段会社内では決まった方、数名にしか PR が行えないが、今回のようなフェアでは普段お会いする事がない方でも、来場された際に PR 活動が行える為です
- ・当社の出展目的の一つに、リクルート活動があります。高校生に就職したい企業として関心を抱いていただき、工場見学に繋がりました。疎遠になっていた民間企業や、新たな官庁のご担当者と交流できました
- ・製品の問い合わせがあった為
- ・年々、認知度が UP しており、その場で注文をいただけるようになってきている
- ・学生及び各企業様への業務内容を知っていただく機会となった為
- ・来場者の反応から、一定の認知・評価をいただけたものと判断している
- ・自社について知ってもらいきっかけになると思う。ブースへの訪問者数も多かった割に、その後の問合せ等が少ないため、有効と考える反面、会社として来年も出展するか悩まれるところです
- ・製品を認知していただく機会となったため
- ・佐賀大学等の学生たちとコミュニケーションが図れたので、有意義な時間であったと感じる
- ・来場していた大学生がインターンシップに参加してくれた



設問 11) 配布したポスターやチラシは活用したか

ポスターやチラシを活用したのは 33% でした。

設問 12) 出展費用（ブース 80,000 円、技術発表 10,000 円）は妥当か

妥当と感じた出展者は 71% でした。

設問 13) 出展ブースの配置は適切か

86% は適切だという結果になりました。

設問 14) フェアが掲げる目的は達成したと思うか

達成したとやや達成したという回答を合計すると 90% となりました。

設問 15) フェアの開催時期と開催時間は妥当か

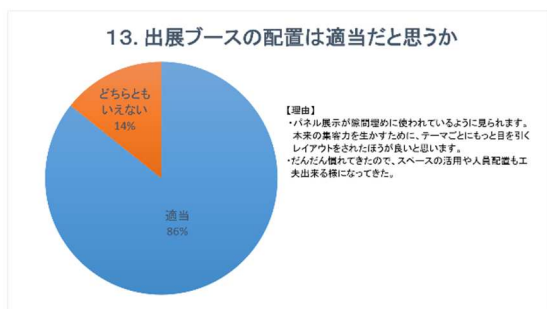
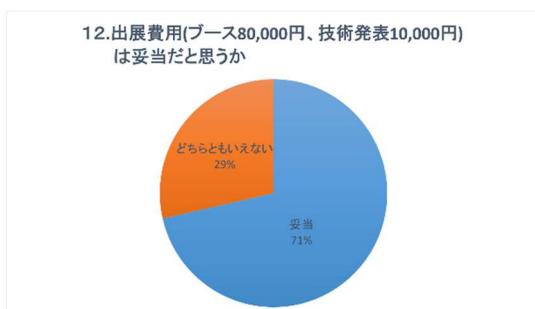
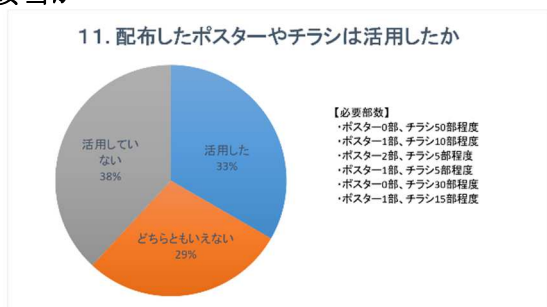
妥当という回答は 100% でした。

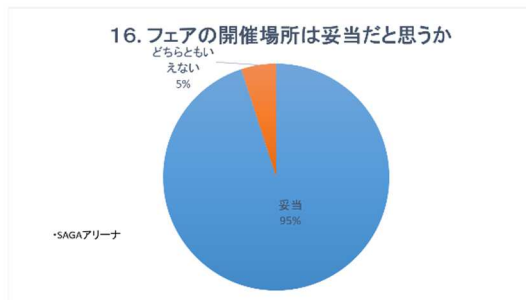
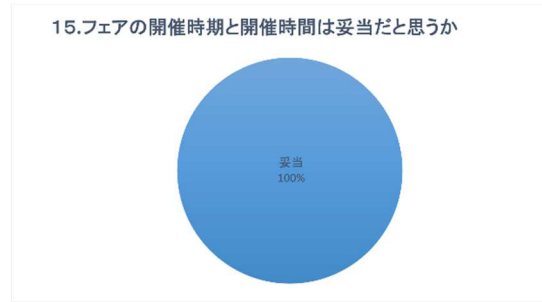
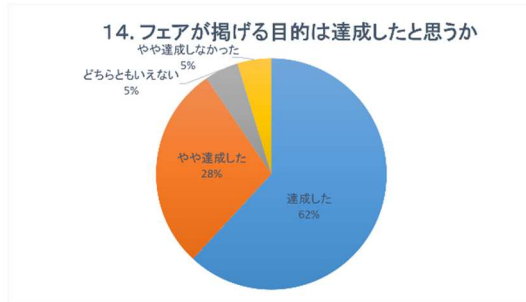
設問 16) フェアの開催場所は妥当か

妥当と感じた出展者は 95% でした。

設問 17) 毎年の開催を希望するか

希望すると回答した方が 85% でした。





【出展者からの自由意見】

- ・昼休憩の時間になると、会場内から一斉に人がいなくなります。他の展示会のように、キッチンカーなど食事ができる環境が整っていれば、来場者に長く会場に滞在してもらうことができ、ブースへの来訪者数も増えて、PRの機会も広がると思います
- ・ある程度動線を一方通行などで固定すると、来場者が全ブースを通る仕組みになって良いかと思いました。出展させていただきありがとうございました
- ・県や各市町との連携を強化し、各自治体のHPでPRしていただくことや、自治体担当者の来場を促すこと
- ・工業系に限らず高校の単位プログラムに組み込むこと
- ・主催者による目を引く展示があればよい
- ・会場に音楽などが流れているとにぎやかに感じると思いました
- ・通路に広がって説明をしていたブースもあったので、通路中央に線を引くなどすれば、ある程度の境界を設けたら、抑止力になるかもしれません
- ・学生が会場に訪問する時間帯を少人数で複数のグループに分けていただきたいと思います。大勢の学生が訪問された場合、入りづらく遠慮したり、キャパオーバーで溢れてしまい説明が聞けなかった学生もおられたかと思えます
- ・来場者に対して、ブース訪問の際に名刺交換をするをお願いをしてほしい。名刺を持っていない方、明らかに展示に興味が無く、サンプルや景品狙いの方も多く見受けられるため、お互いが気持ちよくやり取りできるよう工夫がほしいです。来場者(社名)の一覧表を作成してほしい
- ・貴重な機会をありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします
- ・本年は大変お世話になりました。引き続きよろしく願いいたします

6. まとめ

当機構は、地方公共団体の建設行政との連携・協働を図り、社会資本の整備及び公共施設の維持管理に関する各種の技術支援事業を通じて、県民の安全で安心な生活の実現に寄与することを目的としています。

フェアは、公益目的事業の「技術力向上のための技術情報発信事業」における「建設技術情報啓発事業」に位置付けており、日々進化する建設技術の情報収集発信・利活用が必要不可欠であるという観点から建設技術の理解を深めるための取り組みの一環として実施しました。また、生徒・学生や若手技術者等のキャリアデザイン教育の一助になることも期待しています。

フェアの開催は、以下の3つを柱として、これらを通じて建設産業の発展に寄与することを目的としています。

- ・建設分野（土木・建築）の技術・工法・製品などについて産学官における技術情報の交流の場を提供すること
- ・建設分野の技術開発や新技術導入の促進を図ること
- ・多くの方々に建設業界の魅力や社会資本整備の必要性について理解を深めてもらうこと

コロナ禍では開催を中止したり、来場制限や感染対策を徹底したりするなど、来場者や出展者の皆様にご不便をおかけしましたが、新型コロナウイルスが感染症法上の位置付けが5類感染症に変更された以降は、技術者同士が対面で交流できる場を提供することが有意義だと考え、来場人数等の制限なく開催しています。来場者や出展者のアンケート結果からも対面で交流することの重要性を主催者としても実感しているところです。

会場については、出展ブース数を増やしてフェアの規模の拡大を図り、より多くの方にご来場いただきたいとの思いから、数年前から SAGA プラザ（総合体育館）に会場を変更し、大変ご好評をいただいています。

出展ブース数は、今回は過去最多の66の企業・団体から出展いただきました。来場者数も過去最多の2日間で延べ2,453名の方々に来場いただきました。

来場者ならびに出展者の皆様に対して実施しましたアンケート結果を見ますと、多くの方々にご満足いただいた一方、当日対応や出展内容などへのご意見・ご要望が多数あり、今後の開催にあたっての課題も明らかになりました。継続開催を希望する声も多かったことから、今後はそれらの課題を改善しながら、充実したフェアとなるよう努めてまいります。

また、継続開催のためには、国や自治体、県内の建設業関連の団体・協会のご理解やご協力は必要不可欠です。佐賀大学や県内高校の学生・生徒が積極的に参加できるように連携していくことも重要と考えており、可能であれば九州の大学との連携も模索できればと考えています。

最後に、フェアを開催するにあたり多大なご協力をいただきましたご講演者の皆様、佐賀県をはじめとした共催者および後援の方々、ならびに関係各位に厚く御礼を申し上げますとともに、今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(以上)